



葛飾北斎の肉筆画「椿と鯉の切り身」より構成



2026年度後期講座が始まりました！

49の講座・ワークショップの先頭を切って開講したのは、9月25日の美術Ⅱ講座、美術Ⅰ・ⅡワークショップそしてエクセレントⅡ講座。

今期は、1,641名(延べ2,719名)の皆さまに受講いただいています(10/2現在)。住居別の内訳は、川崎市1,104名(麻生区250、中原区239、宮前区172、高津区158、多摩区146、幸区96、川崎区43)、横浜市230名、その他の神奈川県下40名、東京都230名、その他の都市15名。このうちオンライン受講生は延べ380名で、遠く

は鹿児島県や福岡県、富山県の方もいらっしゃいます。おそらく既受講生のご友人・ご親族なのでしょう。かわさき市民アカデミーの講座の魅力を伝えていただいた結果だと思います。

10月も半ばとなり、多くの講座・WSが開講しましたが、国際関係講座・WSや現代事情など、これから始まる講座も多くあります。

気にはなっていたもののまだ申し込んでいない講座はありませんか。開講1週間前までは先着順で受け入れますので、お気軽にアカデミー事務局にお問い合わせください。



単回受講

後期もやります!!

今期も単回受講を実施します。アカデミーの講座は基本12回(日程)を1セットとしてカリキュラムが組まれていますが、1回だけの受講ができないものかとの多くのご要望を頂きます。

それにお応えて、每期開催の講座・ワークショップのうち、その進行や運営上受け入れ可能な

回(日程)を用意し、その中からいくつでも「単回受講」として受講していただけるという仕組みです。今期は30の講座・ワークショップが対象となります。受講申込は10月20日(火)から、受講を希望する回(日程)の1週間前まで受け付けます。それぞれ定員を設けており先着順での受付となります。人気の講座もありますので早めの申込みをお勧めします。講座受講料は1回(日程)2,000円、受講当日現金でお支払いください。

対象となる講座・ワークショップとその対象回(日程)や具体的なお申込み方法を記載したパンフレットを近々お届けします。現在アカデミーの受講生でない方も受講可能です。アカデミーのことをご存じない方にも是非パンフレットをお渡ししてご案内ください。いきなり12回の講座を申し込むというのはハードルが高いかもしれません。まずは「単回受講」で様子を見て、次の期に申し込むではいかがでしょうか、といったお薦めが随所で行われることを期待しています。

(事業推進部会)



◆「X」,「Facebook」のアカデミー公式アカウントへのフォロー登録をお願いします！

facebook、Xで「かわさき市民アカデミー」を検索して公式ページを開き、facebookは「フォローする」、Xは「フォロー」のボタンをクリックすることで、フォロー登録が完了します。

2026年度前期 運営代表世話人会議が開催されました



8月27日(木)、今年度前期の運営代表世話人会議が、生涯学習プラザで開催されました。各講座・ワークショップの世話人代表の方々、学長、NPO 理事長、理事、参与、事務局メンバー等総勢 41 人が参加しました。

会議は、NPO からの報告が主体の第 1 部と、参加者が小グループに分かれて自由に意見交換をする第 2 部、という 2 部構成で進められました。

第 1 部では、まず本年度の NPO 予算が昨年度実績との対比で説明されました。「延べ受講生数の減少基調にも拘わらず、前回(2024.4)の受講料改定の効果により、2024 年度から黒字決算を維持し、繰越金も 1 千万円超の水準を維持している、今年度前期は久方ぶりに受講生数が増加し、受講料収入を増額して予算計上(3 百万円弱)している、一方人件費等の経費増もあり収支は若干のプラス(1 百万円程度)を見込んでいる。しかし予算は後期の講座受講生数をほぼ前期並みと想定していることから、現時点(8/27)での受講申込状況はほぼ前期並みとは言え、今後講座開始時までの追加申込次第では若干の予算未達もあり得る」との報告がありました。

第 2 部では、「より魅力的な『かわさき市民アカデミー』作りのために」をテーマにフリーディスカッションを行いました。会議開催の 10 日前に配信しておいた、昨年 12 月実施の「受講生アンケート」に寄せられた「自由意見(アカデミーへの要望を)」から抽出した 24 の「要望リスト」を事前にお読みいただき、ご自身はどう感じたか、どの点に共感したか、賛成できないとすればどんな点に対してか、ではどうすれば良いか、といった感想や意見をグループ内で自由に発言していただきました。素晴らしい講師や興味深い講座の発見があるので単回受講は良い試み、もっと若い先生や現役の先生の講座を望む、短期集中講座を増やしてプラザでも開催して欲しい、大学以外の講師をもっと増やしてはどうか、講座の「大学の上レベル」は維持して欲しい(落とすと飽きられてしまう)、といった意見がありました。講座が終わった後皆で気楽に行って話ができるお店があったら教えてください、といった「切実な」要望も出されました。

(事業推進部会)



「ご寄附のお願い」 NPO へのご支援をお願いします

「かわさき市民アカデミー」は「認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー」が運営を担っています。当 NPO 法人では、講師への謝金、事務局の人件費、講座運営費など、運営費用の大部分を、受講料収入で賄っています。また、他の生涯学習機関と比べ、より低廉な受講料設定が維持されているのは、受講生の方々の講座運営への参画、ご協力によるものであり、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

コロナ禍では 2020 年度前期の全講座を休講し、再開後は受講生数が約 2 割減少しました。アカデミーの存続が危ぶまれたこの窮地には、皆様からのご寄附とそれまでの積立金を切崩すことで「かわさき市民アカデミー」は存続することができました。一方、その後の受講生数は十分に回復しておらず、現時点での積立金は NPO 法人での目安とされる「年間予算の三分の一程度」を下回っており、十分な水準とは言えません。

将来の危機に備えることに加え、講座企画の充実や学習環境の整備を図るためには、受講料以外の収入が不可欠です。

以上の状況を何卒ご理解頂き、改めまして、皆様のご寄附による支援を、平にお願いいたします。

なお、当 NPO 法人は、「認定 NPO」の認可を得ており、ご寄附は、所得税と住民税を併せて最大約 50% が税額から控除されます。詳しくは、事務局ほか生涯学習プラザ内に配架されているチラシをご覧ください。

(総務部会)

川崎学双書シリーズ 第 7 巻 発刊のご案内

「織物から見た川崎の歴史—原始から近世まで」 小股 昭 著



川崎市域における織物の歴史に焦点を当て、川崎の歴史ともつくり織物が果たしてきた役割を明らかにする。原料の採集、繭からの製糸、織布に至るまでの粘り強い作業を見ることが、庶民の生活や労働、日本の社会と文化についての理解を深める。

アカデミー受講生頒布価格 800 円
アカデミー事務局で販売中!

気象学・気候学の中村尚先生 ～高校で白熱講義

アカデミー初の「出前講演会」が川崎市立幸高校(7/17)と橘高校(9/14)の2校で開催されました。講師は気象庁異常気象分析検討会会長で東京大学名誉教授の中村尚先生。テーマは「近年の記録的猛暑や豪雨の実態～高校生に知ってもらいたい気象学・気候学」。産業革命後の化石燃料の消費や森林伐採などの人為的要因により地球温暖化が危機的なレベルにまで加速していることへの責任から、若い世代へ自らの言葉で深刻な実態を伝えたいとの思いを表明されたことから実現した講演会です。



先生が今後の地球温暖化にどのように向き合うか、温暖化緩和策と適応策を中心に生徒たちに問いかけると次々に手が挙がり、先生からは丁寧な解説が行われるなど、まさしく白熱講義が展開されました。

さらに終了後のアンケートには、地球温暖化、異常気象の深刻さを受け止めた意見が多く、まだ幼い子供たちが直面しなくてはならない危機的な状況に思いを馳せる意見まであり、高校生から学ぶことの多い講演会になりました。（担当理事 守田 啓子）

麻生市民館「市民自主学級」で アカデミーを紹介

去る8月1日(土)、「人生100年時代をポジティブに！～“これからの私”を考える」と題して行われた麻生市民館「市民自主学級」にて、かわさき市民アカデミーを紹介してまいりました。

長寿日本一である麻生区において、この市民自主学級は「新しいご隠居スタイル」をテーマに据えています。これからの生き方を共に学び、地域の知恵を持ち寄りながら、人生後半をより豊かにするヒントを探ることが目的とのこと。10回の講座で構成され、アカデミーの紹介は「シニアの居場所 麻生区における学びの活動内容について」というテーマで設定された2回目の講座の中で行いました。



アカデミーの全体概要に加え、後期講座の募集期間中であつたことから、新百合ヶ丘で開催予定の講座の詳細に多くの時間を割きました。また、「学び続けるということ」とコーナー立てしつつ、「人間学講座」と「学び歩くかわさき」の講座の様子や受講生の方々のインタビューの動画を上映し、シニアライフにおける学ぶことの価値を印象付けることができました。

質疑応答では、新百合ヶ丘でも人文社会系の講座をもっと実施して欲しいとの要望を頂くなど、終始、熱のこもった講座となりました。

（広報・地域連携部会長 島田 久弥）

《麻生区と高津区のリカレント教育推進事業》 市民館でかわさき市民アカデミーの先生方が講演

社会に出た後も必要なタイミングで学び直し、仕事に役立つ知識やスキル、さらに教養まで継続的に身につけるリカレント教育。文部科学省は「教育と就労を循環させる学び」と説明しており、人生100年時代のキャリア形成に重要とされています。



小松久男先生（世界史）
「イスラム世界と日本」
8月4日 @麻生市民館

諸川春樹先生（美術）
「イタリア・ルネサンス彫刻に秘められた
メッセージを解読しよう！」
8月5日 @麻生市民館



石井誠治先生（みどり学）
「世界に誇る日本の桜が美しい理由」
「美しい日本の桜が危ない」
クビアカツヤカミキリの脅威！」
8月7、8日 @高津市民館

コーディネーターからのひと言 「市民のアカデミーに期待するもの」

「政治・社会」カリキュラム企画・編成委員 都築 勉
(信州大学名誉教授)



雪のないところに雪という言葉がないように、市民のいないところに市民という言葉はありません。私たちは市民です。しかし市民という言葉は日本語になかなかなじみません。かつてはブルジョワと同一視されたこともありましたが、今日では左翼と同一視する人もいます。自分は町民、村民だから市民ではないと思っている人もいます。

市民という日本語は1950年代末からの新中間層の増大に伴って、彼らを表す言葉として広まりました。60年安保を契機とする市民運動の展開も1つの契機になりました。今や日本社会は一億総中流社会ではなく格差社会になっています。中央部分が薄くなっています。加藤秀俊の比喻を使えばちょうちん型からひょうたん型に逆転しつつあります。

市民という言葉が広がり始めた1960年代に、進学率の上昇によって大学の大衆化ということが言われました。今では大学進学率は5割を超えています。ただし同世代人口が270万人いた団塊の世代に比べて昨年の出生数は70万人を切りました。少ない子どもたちの2人に1人は大学に進学します。大学は何をすることでしょか。

教育機関ではなく研究機関を標榜する大学もあります。若い学生たちに学問よりも体験を積ませる大学もあります。市民の大学、市民のアカデミーは、すでにそれぞれの領域で豊かな経験をお持ちの方々が自己認識を深め、新たな連帯を生み出す場所として存在すると私は思います。

『Dトークの会』—D(Democracy)に ついて共に語り学ぶ



25年下期WS(J・
リンズ著『民主体制
の崩壊』を読む)の
後、デモクラシーにつ
いてもう少し理解した

い旨を、WS講師の馬場先生（アカデミー学長）にご相談し、ご支援をいただいて発足した読書会です。

テキスト『浸食される民主主義』（R・ダイヤモンド著）をメンバーがともに読み、考え、自由に意見交換と議論をし、馬場先生の豊富な政治学的な知見に基づく説明を通して、Democracyの理念と実践について学ぶためのサークル活動—いわば《手作りWS》です。

（幹事 黒木専二）

「読む！読む！語る！楽しむ！」読書会 どなたでも参加できます！（松永教室）

「松永教室」読書会は、かわさき市民アカデミー「日本史講座」の講師を務められた松永昌三先生（岡山大学名誉教授）の名を冠し、日本近現代史を主に2004年から始めた会です。今年で22年目、取り上げたテキストは44冊になります。自主的にテキストを選定し、各章ごとに毎回レポーターを決め、テーマの纏めと感想などを発表し、全員で質疑応答・意見交換を行います。

昨今松永先生は外出不自由により、ご不在のまま読



書会を継続。原則月1回程度開催、参加費（部屋代等）1回につき500円（資料代は別途）。最近会読したテキストは、『東アジア現代史』『外務官僚たちの大東亜共栄圏』『戸籍の日本史』等です。

（松永教室幹事 福澤 清和）

ご挨拶（編集後記にかえて）

新たに編集委員に加えていただいた金子勉と申します。アカデミーに出会って6年目、充実した講座を每期堪能しています。

最近になって講座とは別の新たな魅力を感じています。それは、表面に出ない裏方の皆さんとの交流です。多くの各種会議は丁々発止、談論風発。良識と情熱が併存し、自分の非力が恥ずかしくなります。こんな私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41 生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590

HP はこちら↓

FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@kawasaki-c-academy.jp

https://kawasaki-c-academy.jp/

